

高本隆彦理事長 新体制が発足

大印工組の提供サービスを通じて、
新たな価値創造にチャレンジ



浦久保康裕

大阪府印刷工業組合
第14代理事長
株式会社一心社 代表取締役社長

PRI・O
トップ対談

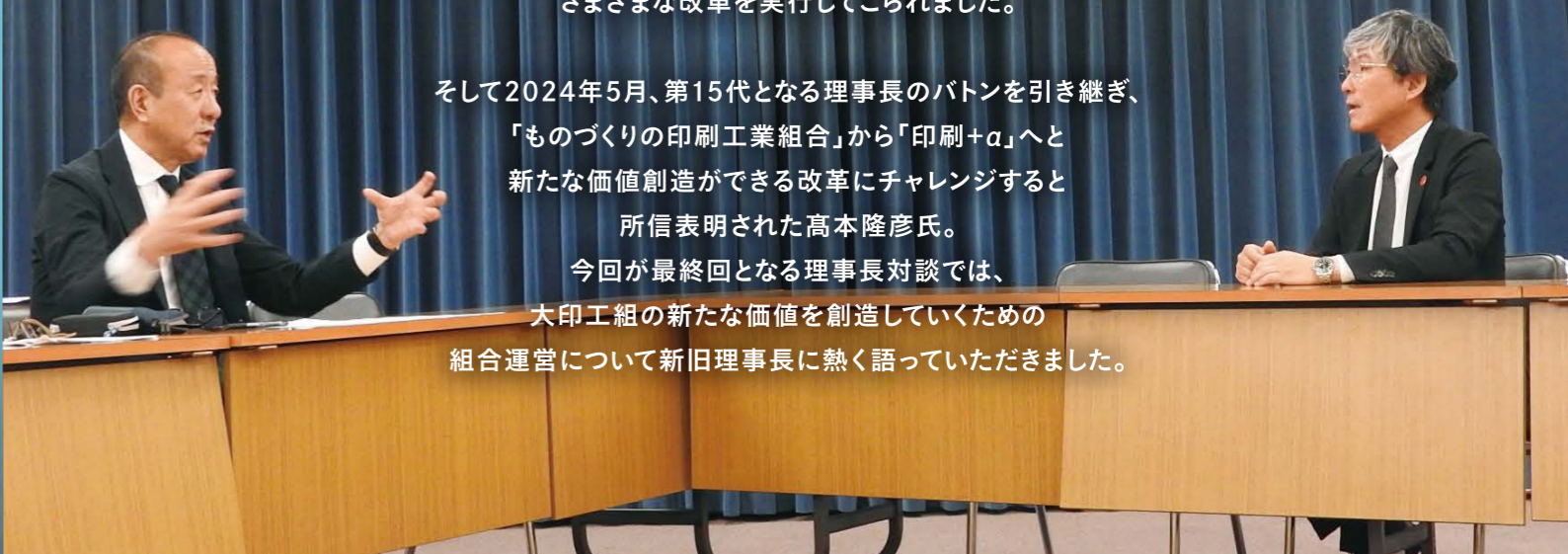
高本隆彦

大阪府印刷工業組合
新理事長(第15代)
大興印刷株式会社 代表取締役

コロナ禍の2020年5月から2期/4年、
大阪府印刷工業組合(以下、大印工組)理事長の大役をまっとうされた浦久保康裕氏。
「共済」「対外窓口」「連帯」の3つを柱に存在意義のある印刷組合を目指し、
さまざまな改革を実行してこられました。

そして2024年5月、第15代となる理事長のバトンを引き継ぎ、
「ものづくりの印刷工業組合」から「印刷+a」へと
新たな価値創造ができる改革にチャレンジすると
所信表明された高本隆彦氏。

今回が最終回となる理事長対談では、
大印工組の新たな価値を創造していくための
組合運営について新旧理事長に熱く語っていただきました。



事業開発 正しく群れる・可能性を拡げる

浦久保: 高本新理事長をはじめ、周囲の方たちに支えていただき2期/4年の大印工組・理事長職をまっとうすることができましたことに、まずは心から感謝申し上げます。この4年を振り返って思うのがやはり前半の2年間に新型コロナウイルスの影響で多くの事業が影響を受けましたが、そのなかでも特に対内・対外との「交流」を妨げられたことが残念でなりません。厳しい運営体制のなかでも、支部と本部の役割を明確にしなが、大印工組の存在価値向上に向けて足を止めることなく邁進できたと思っています。

また、高本さんを次期理事長としてバトンを繋げたことに安堵をしています。高本新理事長が所信に掲げられた「組合員企業の業態変革の一助となる活動を心がける」についてももう少し詳しくお話しいただきたいと思っています。

高本: 私も青年部の頃から長年、大印工組の事業に参画をしてまいりました。また、浦久保理事長の勅命で、1期目に渉外特別委員長としてペーパーサミットの事業を、2期目に次世代の人材育成の事業を、微力ながらお手伝いさせていただきました。私が所信で申し上げた業態変革の一助をひとことで申し上げると、「事業開発」になります。正しく群れながら印刷産業の可能性を拡げる意味で、印刷業界の枠を超えた周辺産業との連携強化を図り、新たな販路を開拓していきたいと思っています。

ペーパーサミットも今年で第3回が終了し、クリエイターとコラボした商品が本当にたくさんできつつあります。地域共生委員会(矢田委員長)では、ペーパーサミットを通じてプランナーやクリエイターをはじめ、ITシステム会社・経営コンサルタントなど、一緒に活動したいと思える方々と、これまで

の印刷業界の枠を超えた仲間として組合に加入していただける施策を検討し組合員の増強を実施します。

また今期から新たに協創特別委員会(伊東委員長)を立ち上げ、文具や紙製品のイベントである「文紙MESSE」をはじめ「紙博」「文具女子博」などに大印工組枠として出展し、他団体との連携強化による「ものづくり」から「サービス業」「物販」など、新しい事業環境を整備します。また次年度以降になるとは思いますが、全国中小企業団体中央会などからの補助を活用し、海外にも販路を拡げていきたいと考えています。



組織交流 組合参画メリットの充実・強化策を実行

浦久保: コロナウイルスの影響を受けるなか、2021年に手探りでスタートしたペーパーサミットでしたが、今年で第3回目を迎えて子どもから大人までが楽しめる、ほんとうに素晴らしいイベントになりました。今年の5月には愛知県印刷工業組合が主催した「ワクワクぶりと博覧会」が2日間行われ、大阪から始まった小さな波紋が全国に拡がりつつあります。次のステップとして海外を含めた販路開拓に力を注いでいただけることを大いに期待しています。

次にコロナ禍の影響であまりできなかった「組織交流」についてお伺いします。私は支部の活性化がすなわち大印工組の原動力になると考え組合事業を進めてきましたが、高本さんはどのようにお考えでしょうか。

高本: 私も浦久保さんと同意見で、支部の活性化が原動力と捉えています。昨年10月に組織共済・支部サポート委員会が主催した「みんながヒーローBBQ大会」に参加して、支部間交流も必要だと感じました。過去にはボーリング大会やプロ野球観戦を本部主導で行ってききましたが、誰もが隔たりなく参加できるような事業を推進してまいります。また大印工組には13の支部がありますが、その規模や活力度もそれぞれ違います。そのような状況を埋められる、支部単体では行えない事業を組合員例会として本部主導で実施していきたいと考えています。組織活性化委員会(中川委員長)が主催する例会を通じて、支部の壁を超えた新たなコミュニケーションを促進

し、新規加入いただいた組合員のみならず、既存の組合員同士の交流を増やしてまいります。また各社が自社のプレゼンテーションをする場を創り、組合員企業同士の結束と新たなビジネスを促進できる場の提供を行ってまいります。

また今年から新設したパートナーシップ特別委員会(高本禎朗委員長)では他団体との連携、メーカー様・ベンダー様との関係強化によって、各種補助金の獲得まで組合員企業のビジネスを強力にサポートするとともに、パートナーシップ会員の皆様に対しても有益な事業を推進してまいります。



次世代の人材育成 会社を「継ぐ」から「創る」へ!

浦久保: 大印工組の事務局があった大阪印刷会館の3階をリニューアルし、多目的でご利用いただけるスペースを「コラボ・プレイス・オオサカ(CPO)」の名称で今年の6月にプレオープンします。まさに高本さんが目指す、支部を超えた新たな交流の場として活用ください。

では「次世代教育」についてお話を伺いたいと思います。昨年度は大印工組として初めての超越経営者育成プログラムとして「印刷経営革新塾」をスタートさせ、10名の1期生が全員卒業されました。1年間ものあいだ同じ釜のメシを食った仲間との絆は、彼らにとって大きな財産になると思ってい

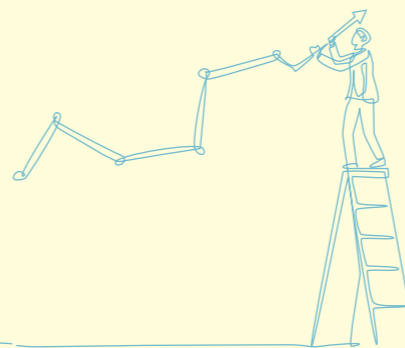
ます。高本さんは人材育成について「ものづくりの印刷工業組合」から次世代の「印刷+α」へと掲げられていますが、具体的にどのような事業をお考えでしょうか。

高本: われわれ中小零細企業の経営者って孤立しがちだと思うんです。そうすると従業員まで元気がなくなっていってしまう。新たに設置した教育研修委員会(吉田委員長)では、働く環境別の交流や勉強会を開催していきます。経営層でいいますと、単にこれまでの「会社を『継ぐ』」のではなく『創る』へ!」アトツギベンチャーとして10年後・20年後の理想的な未来を描き、そこから逆

算して、現実に必要な解決策やシナリオを設定できるような未来創造型アプローチを実施していきます。世界は急速に変わっています。ベンチャーマインドを持って「印刷+α」の実践を目指す経営者としての知見と想像力を深め、同世代と切磋琢磨しながら成長を遂げていく、そして現役親世代が安心して事業承継を行えるような事業に取り組んでまいります。

また大きく変革する社会においては、求められるスキルの変化に適応するため、必要なスキルを習得するリスキリングが必須です。Adobeセミナーや全日本印刷工業組合連合会が提供している「印カレ eラーニング」なども有効に活用しながら、経営者や従業員に向けた未来創造型の「学びの場」を提供します。

経営革新委員会(谷川委員長)は、2期目となる「印刷経営革新塾(今年度は9月からの開講を予定)」の企画・運営が中心となりますが、教育研修委員会と連携しながら大印工組のプレゼンス向上を目指します。



広報渉外 サステナブルな未来を実現するために

浦久保: 企業の成長は従業員の成長なしには成り立たないと思います。経営者と従業員の両輪で学べる場の提供が重要だと思います。また継続的に印刷経営革新塾を継続し、印刷業界全体を盛り上げていけるようなアトツギベンチャーの育成にも期待しています。

最後に「広報渉外」についてお伺いします。私は大印工組の会報誌「PRI・O」を活用して今の印刷業界の現状を対外的に発信する広報誌としてリニューアルするため、巻頭特集として「理事長対談」を4年間続けてきました。また昨年大印工組のSNS「インサツグラム」を立ち上げ、若い世代にも印刷業界の現状を知っていただける情報発信をスタートさせました。高本さんは今後、どのような情報発信の企画をお考えなのでしょうか。またCSR推進委員会から名称が変わり、サステナビリティ委員会が発足しましたが、どのような意図があるのでしょうか?

高本: 今後の広報誌「PRI・O」では広報委員会(田中委員長)を中心に、印刷会社だけに限らず「いい会社」とはどんな会社なのかをテーマにした巻頭特集を企画しています。社会に選ばれる企業になるために「地球に正しい活動(ソーシャルビジネス)」を実践している企業・団体の取材を中心に進めていきたいと思っています。

印刷業界は早くから環境対応を考えたグリーンプリンティング認証制度や情報分野におけるユニバーサル・デザイン=メディア・ユニバーサル・デザイン(MUD)へ

の取り組み、また商工組合として日本初のCSR認証制度を確立するなど、さまざまな取り組みを通じて企業の社会的責任を果たしています。このような活動をしている商工組合は他にはなく、世の中を良くする活動を実践している事例を数多く紹介してまいります。

またCSR推進委員会を改めサステナビリティ委員会(白石委員長)では、広報委員会との連携を視野に、「どういう社会をつくりたいのか」という問いと、「将来どんな未来をつくりたいか?」について、21世紀型の新しい企業活動「21世紀のいい会社」とは何か?を考えるきっかけになるような啓発活動を推進していきます。

この両委員会の活動を通じて、新たな印刷産業のあるべき姿=サステナブルな産業のあり方を業界内外に広く発信してまいります。

浦久保: 私が理事長に就任した2020年春からの4年間は、まさに激動の時代でした。新型コロナウイルス感染症の拡大は、世界中の「人・もの・お金」の流れを一斉に止め、未曾有の不況をもたらしました。われわれ印刷業も例外ではなく、全国平均で売上が30%近く減少し、今なおその影響は色濃く残っています。

この間、コミュニケーションのあり方も大きく変わり、デジタル技術の進展と共に新たなスタンダードが生まれました。この変化は一時的なものではなく、コロナ禍前の姿には戻らないという現実を受け入れざるを得ません。こうした状況下で、組合の存

在価値をリセットし、構造改革を断行する必要性を強く感じました。

2021年夏には全日本印刷工業組合連合会から「INSATSU未来トランスフォーメーション」が発刊され、混迷の時代における経営指針が示されました。その中で令和は「超越経営者の時代」と定義されました。超越とは、アップデートすること。本業や業種・業態の枠を超え、先代や先々代の経営者の型を越えることです。印刷業を継ぐのではなく、ベンチャースピリッツを持ち、「印刷+α」の価値を生み出し、次の時代を力強く切り開く超越経営者の育成が急務となります。

また、この間に印刷工業組合の基本機能である「共済」「対外窓口」「連帯」の3つの役割を総点検し、現組合員はもとより、新たに加入いただく方々にとっても魅力あるものにする努力も続けてまいりました。

皆様のご協力とご支援のおかげで、多くの取り組みを実現することができました。この4年間の経験と成果を基に、今後も組合がさらなる発展を遂げることを確信しております。

高本理事長新体制におきましても引き続き、皆様のご理解とご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。在任中は大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

